

CITY & LIFE

特集

公共建築のデザイン

都市のしくみと暮らし
AUTUMN
1992

25





戦後、公共建築は機能面のみ重視され、コストは抑えられ、デザイン面も外観はコンクリートの四角いビルと画一的であった。だが、80年代には人々の目がさまざまなもののデザインへと向いた。そこには一般の建築も公共建築も、そしてまちづくりも含まれている。公共建築にアーバンデザイナーや建築家が起用されるようになり、多様なデザインが試みられた。だが、デザイン的に特化した公共建築は、利用する立場に立つ時、必ずしもよいものとは言えない。現在は公共建築を環境という視点からとらえようという考え方が広まってきている。公共建築のあり方をめぐって考えてみたい。

CONTENTS

府県庁舎のデザインの変遷	2
／石田潤一郎	
〈座談会〉デザイン時代の公共建築	8
／磯田桂史／長谷川逸子／柏木博	
公共空間における屋外彫刻	15
／石川健次	
〈ルポ〉地方公共団体の庁舎デザインを巡って	21
公共建築の試み	34
／川端直志	
市民の領域……公共性の誕生と変遷	39
／若林幹夫	
〈都市を拓いた人々・8〉那覇	44
／吉田豊	
ブックリスト	48
バックナンバーのお知らせ・INFORMATION	49